



～図書室にはこんな本があります～

No. 110

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 今年、天皇皇后両陛下は金婚式を迎えられましたが、当時の「ミッチーブーム」について知りたい。

答) 「ミッチーブーム」をキーワードとして、**ことば**で検索します。

全資料 → **ことば** → **ミッチーブーム** ⇒ 16件該当

* 昭和史の側面から

『日本近代史の虚像と実像 4』(210.6/F68/4)閉架

『昭和史 戦後篇』(210.7/H29)閉架

* マスコミの側面から

『美智子妃誕生と昭和の記憶』(288/Ki87)開架

『昭和テレビ放送史 上』(699/Sh27/1)開架

◎昭和34年4月10日の「結婚の儀」やご成婚パレードなどの詳細は、『昭和 第11巻(二万日の全記録)』(210.7/Ko19/11)開架をご覧ください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

「国民病」と呼ばれた結核

最近、ある芸能人が結核に感染したため活動を自粛したことが報じられ、昔の病気だと思われていた結核への関心が高まっているようです。

結核は、結核菌によって人から人へ感染する慢性感染症です。明治時代から昭和20年代までの長きにわたり「国民病」「亡国病」と呼ばれ、最も問題とされてきた疾患でした。戦時中の深刻な経済状況、食料・燃料・衣類の不足や不衛生な状態はこの疾患の流行に拍車をかけ、昭和25年まで死因の第1位を占めてきました。それにもかかわらず、当時は、治療費が高額であったり、病床数が絶対的に不足していたため、多くの結核患者は自宅療養を行うことを余儀なくされていました。

当時の新聞や刊行されていた雑誌を見てみると頻繁に結核関連記事や広告、自宅療法についての記事が掲載されており、人々の関心の高さを示しています。

「結核症の方々におすすめする献立」

結核療養の秘訣は、空気、安静、栄養の三つが大切ですが、ことに熱のある場合は、ビタミン B2 をはじめ各種のビタミン類、脂肪、蛋白質の補充が、充分(一日二千四百カロリー以上)のように献立に気をくばる必要があります。(中略)

従来、結核患者は食欲が衰えるもののようにいわれていましたが最近では化学療法その他の進歩もあり、献立に注意なされば、めったに食欲を失うようなことはありませんから、十時、三時の間食なども小麦粉の菓子などを添えて、栄養の補給をはかるのが効果的であります。牛乳はカルシウム源としても大切ですから、できれば毎日おやつに一回一合をとりたいと思います。

『婦人倶楽部 (昭和28年2月号)』(051/F64/34-3)より
※旧漢字、旧仮名遣いは改めました。

- 『家で病気を治した時代』(598/Ko38)
- 『GHQ 日本占領史22』(210.76/A42/22)
- 『衛生局50年史』(498/To46)
- 『婦人倶楽部 昭和28年2月号』(051/F64/34-3)



—図書室から—

開館10周年記念「昭和の日」特別企画展のご案内

平成21年4月25日(土)～5月10日(日)まで「映像と写真・雑誌にみる戦前から戦後の日本」と題して特別企画展を開催いたします。ぜひご覧ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 110
2009年4月22日 発行
編集・発行 昭和館 図書室
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1